

特集 農商工連携 熊本の産物をくまもとの技術で魅力アップ!

農商工 わたしたちがタッグを組んで、おいしい、熊本をお届けします



極小粒大豆「すずおとめ」の納豆で、子どもたちも食べやすく!



(株)丸美屋 南関工場長
よねざわ けんし
米澤 健志さん(南関町)



(株)H.K.S FACTORY たいやき工房総本舗
オペレーションマネージャー
いしくれ しゅういち
石樽 秀一さん(菊陽町)

黒大豆「クロダマル」で香り高く深い味わいのあんこをたい焼きに!



こだわりの黒大豆『クロダマル』の話を聞き、黒あんを作ってみたと思ったのがきっかけです。ほかにはないあんこを作るため、試行錯誤を繰り返して、難しいといわれていた大豆の「あんこ」が出来上がりました。



大豆のあんこって、珍しいですね!

小豆とは違った豊かな香りと味わいが特徴で、「昔のたい焼きを思い出す」と大好評です。農商工連携で商品開発のスピードが増し、たい焼きという気軽なグルメで、熊本県産品のおいしさを県内外、そして世界にもアピールしたいと、頑張っています。



まだまだあるよ くまもとの大豆製品!



(株)大豆工房かしま(嘉島町)では、安全安心で健康にこだわったドレッシングなどを製造販売。美しく豊富な地下水が育てた地元産大豆を使った商品です。

(有)あさぎり町ふるさと振興社は、糖度12度の甘さを誇る大豆のうま味たっぷりの豆乳を製造。また、球磨酪農農業協同組合は、自社牛乳とこの豆乳をブレンドした業務用ヨーグルト「あさぎり」を製造。



熊本産から広がります。

これまでわたしたち生産者は、生産物が何になり、誰に食べられているのかまで知る機会はありませんでした。食品業者さんなどと農商工連携することで、消費者の「おいしかった」という声が届き「また来年も頑張ろう」という意欲がわきます。

くまもとならではの取り組みが、ドンドン生まれています。

■ 農商工連携などに関するご相談は地域力連携拠点へ!

地域力連携拠点では、支援の専門家であるコーディネーターを配置し、農商工連携をはじめ、地域資源活用、経営革新、事業承継などの相談にワンストップで対応しています。

熊本県商工会連合会 / ☎ 096-325-5161
山鹿市商工会 / ☎ 0968-46-2141
熊本商工会議所 / ☎ 096-354-6688

八代商工会議所 / ☎ 0965-32-6191
荒尾商工会議所 / ☎ 0968-62-1211
熊本県中小企業団体中央会 / ☎ 096-325-3255

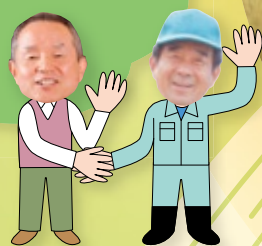
熊本県農業協同組合 / ☎ 096-372-6877
あまぐさ農業協同組合 / ☎ 0969-22-1100
人吉商工会議所 / ☎ 0966-22-3101

お問い合わせ 商工政策課 ☎ 096-333-2313 FAX 096-385-5850 電子メール shoukouseisaku@pref.kumamoto.lg.jp
合わせ先 園芸生産・流通課 ☎ 096-333-2395 FAX 096-385-4334 電子メール engeiseisan@pref.kumamoto.lg.jp



(有)木村食品/とうふ工房 きむら
きむら のりあき
代表取締役 木村 則昭さん(熊本市)

緑色大豆「キヨミドリ」で美しく風味豊かな緑色の豆腐を!



鮮やかな緑色大豆「キヨミドリ」を使った豆腐は、ほんのりとした甘さと淡く美しい緑色などが、大変好評です。生産者のアグリともあいさんは、小学校で農業体験を指導されており、わたしも同じ学校で豆腐教室をやっている縁で知り合いました。



『キヨミドリ』の緑色は、熱を通すと退色するのが難点。産業技術センターにも協力いただきながら、もっと緑色がきれいな豆腐を作るための工夫を重ねていきます。地場産の大豆を使った商品のおいしさを、もっと多くの皆さんに知っていただきたいですね。



くまもとは、もっともっとた〜くん いいものがあるんだよ〜! 詳しくは、ホームページを見てね。

くまもと農商工連携100選

現在67件のさまざまな新商品・新サービスが選定されています。平成22年度までに100件の取りまとめを行います。

くまもと農商工連携

検索

主な県政の動きと出来事を紹介します



1月・2月・3月



- 知事が県産農林水産物などをPRする「くまもとの宝トップセールス事業」を発表。国内外でセールスを展開。
- 川辺川ダム事業を巡り「ダムによらない治水を検討する場(第1回)」を開催。(以降随時開催)
- 財政再建に向けた具体的な方策などを取りまとめた「財政再建戦略」を策定し、公表。
- くまもとの宝である地下水保全のため、「熊本地域地下水総合安全管理計画」に基づく「行動計画」を策定。
- 県の教育振興に関する方策を総合的に取りまとめた計画「くまもと「夢への架け橋」教育プラン」を策定。
- 県内農林水産物などへの理解を深め、県民の郷土愛をはぐくむような取り組みを推進する「くまもと地産地消推進県民条例」が制定。



4月・5月・6月

- 新型インフルエンザの発生を受け、県対策本部を設置し、学校の臨時休業などの感染拡大防止やワクチン接種などの対策を実施中。
- 県民に大きな「夢」を与えた個人などに、その栄誉をたたえる「くまもと夢づくり賞」を創設し、小山薫堂氏へ授与。
- 県内初の併設型中高一貫教育校として県立宇土中学校・八代中学校が開校。
- 県消費生活センターを県庁舎新館4階に移転し、相談機能を充実強化。
- 有明海、菊池川河口域でアナアオサが異常発生。また、7月には有明海・八代海で発生した赤潮により漁業被害が発生。
- 創業支援を目的としたインキュベーション施設「夢挑戦プラザ県北・県南」を開設。
- 厳しい景気・雇用対策と併せ、くまもとの夢実現のため、経済対策としては過去最大の6月補正予算を編成。



7月・8月・9月

- 「熊本モデル」の認知症疾患医療センター(8ヶ所)を設置し、認知症コールセンター(096-355-1755)も運用開始。
- フジドリームエアラインズ(熊本〜静岡線)が就航。
- 「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法」が成立。
- 広西壮族自治区(中国)との「友好交流覚書」を締結。
- 平成23年10月開催の「ねりんピック2011(ふれ愛)熊本」を、県民総参加で盛り上げるため実行委員会を設立。
- 米の消費拡大を目指し、新しい食材「米粉」の生産・流通促進の取り組みを加速。県産米粉パンの学校給食への提供も開始。
- 川辺川ダム事業について、国土交通大臣がダム本体工事の中止を表明。五木村と県が共同で、村民を主役とする「ふるさと五木村づくり計画」を策定。



10月・11月・12月

- 平成23年3月の九州新幹線全線開業に向けた最後の高架橋工事が終了し、博多〜新八代間がすべてつながる。
- 熊本市と城南町、植木町の合併が決定(総務大臣告示)。政令指定都市実現へ大きく前進。
- 鞠智城イメージキャラクターが決定。
- くまもとの観光素材を特典付きで紹介する「くまもと最高ザンス観光キャンペーン」がスタート。
- 高円宮妃殿下をお迎えし、平成21年度全国食生活改善大会などを熊本市で開催。